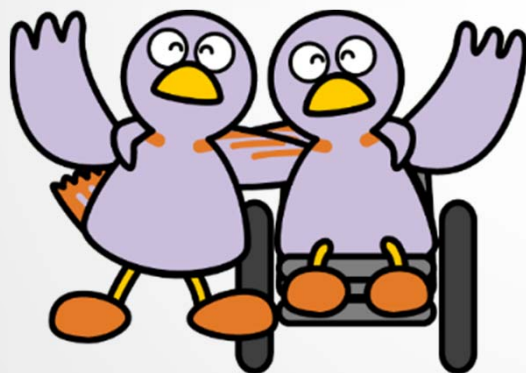


地域実践研究成果報告

— 埼玉県 の 取組 —

「小・中学校における特別支援教育に関する校内研修」について



埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課 若月 雅子

埼玉県立騎西特別支援学校（令和元年度地域実践研究員） 三好 辰昌

本日の内容

- ▶ 特別支援教育に係る本県の現状と課題
- ▶ 地域実践研究事業に参画して
 - ①昨年度までの取組
 - ②今年度の取組
- ▶ 今後に向けて



1 本県の現状と課題



学校種	設置数	在籍数	昨年度比
小学校	8 1 4 校	560,063人	3,800人減
中学校	4 4 7 校		
義務教育学校	1 校		
特別支援学校	4 6 校	7,898人 (幼・小・中・高)	91人増

特別支援学級及び通級指導教室で教育を受ける児童生徒数

昨年より745人増

◎小学校および中学校の特別支援学級・・・9,417人

◎通級指導教室・・・4,052人

昨年より168人増

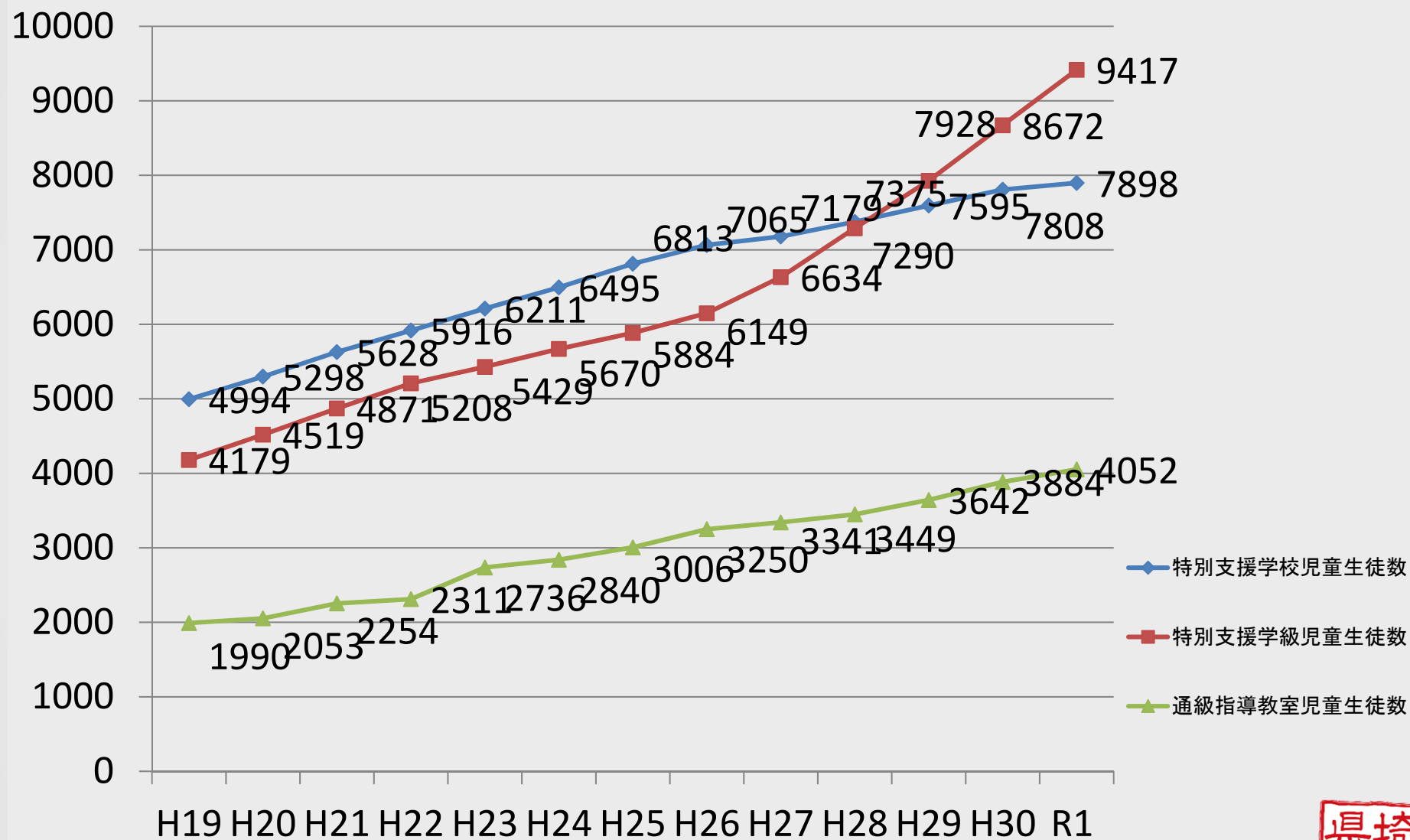


本県の現状と課題

昨年度までの取組

今年度の取組

今後に向けて



埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課 令和元年度「埼玉の特別支援教育」より

●特別支援学級の設置率

	小学校	中学校	全体
H28	76.8%	72.1%	75.2%
H29	80.6%	75.2%	78.8%
H30	84.1%	78.9%	82.3%

●通級指導教室の設置数

	難聴・言語	発達・情緒	合計
H28	104教室	144教室	248教室
H29	110教室	185教室	295教室
H30	115教室	193教室	308教室

「インクルーシブ教育システム構築」 に向けたビジョン

「様々な課題がある子供たちの可能性を最大限に
引き出すことのできる指導力を身につけた教員の
育成」

第2期教育振興基本計画（平成26年度～30年度）



平成28年度より
国立特別支援教育総合研究所
「地域実践研究事業」に参画



2 地域実践研究事業に参画して

①昨年度までの取組



平成28年度～平成29年度 インクルーシブ教育システムの構築に向けた研修 に関する研究

市町村教育委員会が主催する、小・中学校の
校長及び特別支援教育コーディネーター用の
「インクルーシブ教育システム構築に向けた
研修プログラム」を開発

各市町村で「研修プログラム」の
普及・促進



○埼玉県の小・中学校では、特別支援教育の質を高める取組が上手く進められていない状況がみられる。

○小・中学校の特別支援教育を充実させるためには、校長、特別支援教育コーディネーターが中核となって進めていく。市町村教育委員会が学校を支援する必要がある。

○市町村教育委員会が主催する、小・中学校の校長と特別支援教育コーディネーター対象の研修プログラムを最優先に開発することにした。

本県の現状と課題

昨年度までの取組

今年度の取組

今後に向けて

A市

B市

C市

「インクルーシブ教育システム構築」に向けた現状と課題の分析

- ・現状と課題把握のためのチェックリスト
- ・市教育委員会でのインタビュー調査
- ・小・中学校での校長、特別支援教育コーディネーターへのインタビュー調査

- ・現状と課題把握のためのチェックリストの修正
- ・課題把握の項目の解説 作成
- ・内容として押さえておきたいポイント 作成

研修企画書作成

研修企画書作成

研修企画書作成

『インクルーシブ教育システム構築に向けた研修プログラム』 作成・実施

研修の評価指標 作成・活用



「研修プログラム」実施マニュアルの概要

1. 1年間の研修実施計画を作成

「研修の現状と課題把握のためのチェックリスト」を使用

2. 各研修会を立案

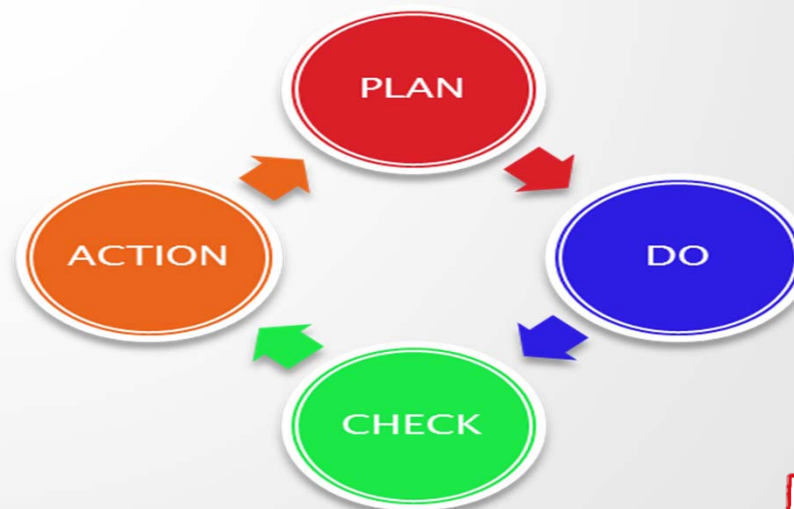
3. 各研修会を実施

「研修アセスメントシート」を用いて、「研修企画書」を作成

4. 各研修会の評価

5. 1年間の研修の評価

6. 研修計画を見直す
→改善、次年度につなげる



研修をPDCAサイクルで企画・実施・評価・改善

本県の現状と課題

昨年度までの取組

今年度の取組

今後に向けて

課題把握の項目	研修会等																	
	種 2 8 年 3 月 校 長 会	種 2 8 年 4 月 校 長 会																
<教員等の意識や理解に関すること>																		
1 教員一人一人のインクルーシブ教育システムや合理的配慮に対応する意識に関する内容	◎	◎																
2 障害のある子供が共に学ぶことの意義や意味の共通理解に関する内容	△	◎																
3 合理的配慮の提供に対応するための内容	◎	◎																
4 インクルーシブ教育システムの体制づくりの評価に関する内容																		
<支援の連続性、一貫した支援体制に関すること>																		
5 進学に伴う学校間の引き継ぎ、支援の連続性に関する内容		△																
6 個別の教育支援計画の作成及び活用に関する内容	◎	◎																
7 早期からの一貫した相談支援体制、社会的自立に向けた体制に関する内容		△																
<校内支援体制の構築に関すること>																		
8 管理職のリーダーシップの強化に関する内容		◎																
9 通常の学級担当教員の指導力の向上に関する内容	◎	◎																
10 専門性に裏付けされた指導・助言のできる人材の活用に関する内容																		
11 特別支援教育コーディネーター役割と専門性に関する内容		△																
12 校内委員会等の役割の明確化に関する内容		△																
13 個別の指導計画の評価・見直しに関する内容	◎	◎																
<教育の専門性に関すること>																		
14 特別支援教育に関する専門性の高い教員の育成に関する内容																		
15 他職種との連携に関する内容		△																
<本人や保護者に関すること>																		
16 保護者の不安や要望に応えられる相談支援体制、関係機関との連携に関する内容	◎																	
17 本人及び保護者との合意形成の進め方に関する内容		◎																
18 本人や保護者の発達課題に応じた自己理解に関する内容		△																
19 周囲の子供や保護者、地域住民に対する理解啓発の促進に関する内容		△																

◎取り組んだ内容 ○取り組んだがまだ不十分内容 △今後取り組みたい内容



市町村教育委員会



研修プログラム



管理職
特別支援教育コーディネーター



取組の現状が
明確に整理されていない



小・中学校の通常の学級の教員



平成30年度～平成31年度 インクルーシブ教育システムの 理解啓発に関する研究

小・中学校の通常の学級の教員

特別支援教育についての理解を深め、通常の学級の中で特別支援教育を進めるための効果的な取組

平成30年度

特別支援教育に関する研修
の実態把握

平成31年度

校内研修モデル
の開発



○受講したことがある特別支援教育に関する 教員研修の内容

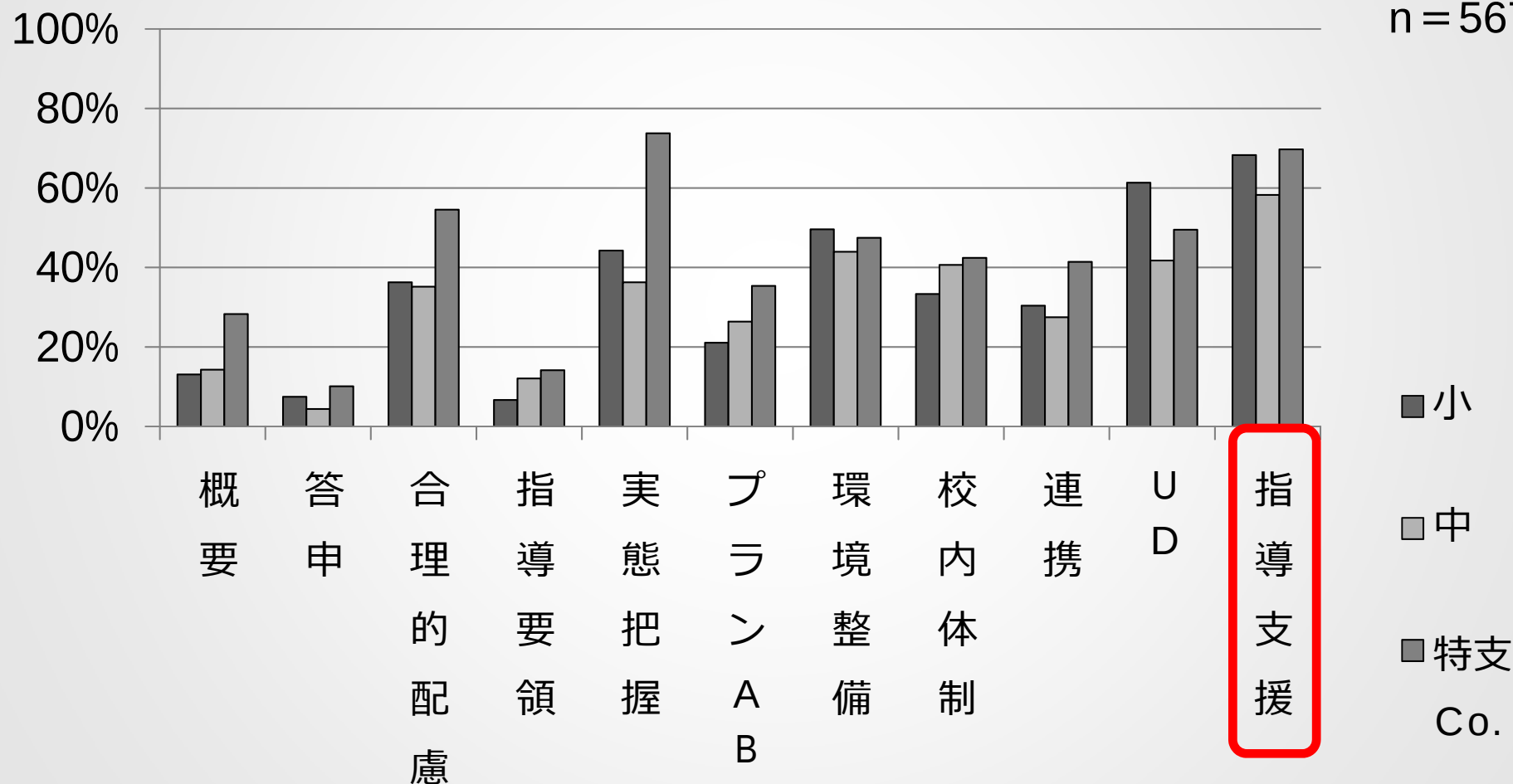
n=347

概要	答申	合理的 配慮	指導 要領	実態 把握	プラ ンAB	環境 整備	校内 体制	連携	UD	指導 支援
46.9 %	18.0 %	33.6 %	16.7 %	41.5 %	27.6 %	42.8 %	28.9 %	24.8 %	41.5 %	49.7 %

80%以上の教員が指導や支援に生かしている

○特別支援教育の推進に向けて必要と考える 校内研修の内容

n = 567



○研修受講により実践に結び付いている 具体的な取組項目

n=347

研修を受講したことで実践に結び付いている具体的な取組	小学校 実施率	中学校 実施率
整理整頓しやすいように工夫	69.9%	54.9%
視覚的な支援	83%	71.4%
時計やタイマーを活用	89.1%	61.5%
具体的な数や量で示す	57.4%	34.1%
板書の工夫	88.8%	80.2%
協同学習の工夫	87.5%	83.5%
児童生徒の話を聞く	91%	73.6%
指示は短く具体的	79.3%	73.6%

※クロス集計結果より



特別支援教育に関する研修の受講は、特別支援教育の視点を取り入れた支援・指導を行うための有効な手段である

より実践に活かせる研修



校内研修

調査より明らかとなった課題

- ①研修を計画する教員（特別支援教育コーディネーター）の経験等により校内研修の立案に差異が生じる場合がある。
- ②研修時間の確保が難しい。
- ③学校により校内研修実施回数が異なる。



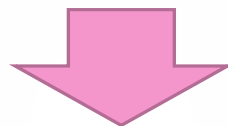
具体的な校内研修の在り方について検討

2 地域実践研究事業に参画して ②今年度の取組



昨年度の取組から

- ・ 特別支援教育に対する理解は深まってきている。
- ・ 実際の指導に結びつく研修のニーズが高い。
- ・ 多忙な中で研修を行う時間の確保が難しい。



研究テーマを設定

小・中学校における校内研修についての研究

ー小・中学校における一人一人の教育的ニーズに応じた
授業づくりのための研究協議会の在り方についてー



研究協力校で授業を実施し、その授業後の研究協議会を特別支援教育の理解啓発を促す研修の機会として位置づける。

研究の方法

① 研究協力校（小・中学校４校）の教員全員に対する質問紙調査

研究協力校の教員が行っている一人一人の教育的ニーズを意識した指導・支援に関する実践事例の収集を行ない、日々の指導に生かすことができる事例集を作成

→ 「みんながわかる授業づくりアイデアシート」
を作成



研究の方法

- ②一人一人の教育的ニーズを意識した授業の実施
- ③授業後の研究協議会において、専門性向上のための研究協議会の在り方等 について検討
 - 「みんながわかる授業づくりアイデアシート」
を活用して、協議の観点として活用

「みんながわかる授業づくりアイデアシート」について

- 1 【一人一人の持ち物が整理しやすい工夫】
 - ①収納場所をわかりやすくするための工夫
 - ②置き場所を決める ③整理整頓の時間を設ける
 - ④見本の提示 ⑤置き場所の確保⑥その他

- 2 【児童生徒にわかるように示す工夫】
 - ①提示場所の工夫 ②提示方法の工夫
 - ③提示のタイミング

「みんながわかる授業づくりアイデアシート」について

3 【集中できる教室環境の工夫】

- ①座席等の工夫 ②視覚刺激への配慮
- ③聴覚刺激への配慮 ④整理整頓 ⑤その他

4 【授業の見通しの持たせ方の工夫】

- ①目標の提示 ②授業の流れを統一
- ③授業の流れの提示 ④授業の内容の提示
- ⑤その他

「みんながわかる授業づくりアイデアシート」について

5 【わかりやすい伝え方の工夫】

- ①見てわかる工夫 ②板書の工夫
- ③指示の出し方 ④話し方の工夫⑤その他

6 【考えをまとめさせるための工夫】

- ①ワークシートの活用 ②板書の工夫
- ③話し合い活動
- ④キーワードやポイントの提示
- ⑤考える時間の確保 ⑥例の提示 ⑦その他

「みんながわかる授業づくりアイデアシート」について

7 【理解を促す学習形態の工夫】

- ①流れを統一 ②話し合い活動 ③習熟度別
- ④座席の配置 ⑤その他

8 【実態に応じた教材・教具の工夫】

- ①ワークシートの工夫
- ②絵やイラストの活用
- ③見やすさへの配慮
- ④具体物、半具体物の提示
- ⑤ICTの活用 ⑥その他

「みんながわかる授業づくりアイデアシート」について

9 【児童生徒が自分の考えを伝えやすい工夫】

- ①型・ルールの提示 ②雰囲気醸成
- ③考える時間の確保 ④自信が持てる工夫
- ⑤発表の機会の確保 ⑥その他

「みんながわかる授業づくりアイデアシート」について

5【わかりやすい伝え方の工夫】

◎学級全体に対しての配慮

①見てわかる工夫

- できるだけ具体物での操作活動を取り入れるようにしている。
- パワーポイント等を活用し、プロジェクターで映している。
- 視覚に訴えかけるべく、イラストを交えながらやるべきことを板書しておく。
- 一斉に向けて指示をする時は、実物を使って話している。
- 言葉だけでなく身振り、図や絵で示している。

②板書の工夫

- 大切な言葉などは黄色いチョークを使って目立つようにしている。
- 黒板をノートに見立てて、どこに何を記入したらよいか意識できるよう工夫している。
- 使用するチョークの色の配慮をしている。
- めあてとまとめが正対できるような板書を心掛けている。
- 矢印のマグネットを使用して目立たせることで、取り組んでいる学習内容を示している。
- わかりやすく、易しい言葉で提示している。
- 黒板の文字をはっきり大きくわかりやすく書くように心掛けている。
- 黒板を見れば今日の授業でどんなことを学習したのかがわかるように板書を工夫している。

③指示の出し方

- 発問を精選している。
- 学習内容の手順（活動内容）は3つに絞って説明する。
- 指示は1つずつ、短く伝えるようにしている。
- できる限り児童生徒のわかる言葉（知っている言葉）を使うようにしている。



指導案作成 (Plan)

「アイデアシート」を参考にして指導案を作成



授業実施 (Do)

「一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくり」の実践



研修モデルイメージ

「アイデアシート」のブラッシュアップ (Action)



Version Up!!



情報の共有

研究協議 (Check)

「教師の良かった手立て」
「児童生徒の困っていた様子」
「次時に向けてのアイデア」についてのグループ協議



新しいアイデアの発見

本県の現状と課題

昨年度までの取組

今年度の取組

今後に向けて

研究協力校での実践

	D市	E市	F市	G市
日時	10月21日 (月)	11月5日 (火)	11月19日 (水)	11月20日 (水) 12月4日 (水)
校種	中学校	小学校	小学校	中学校
教科	社会 (2年生)	外国語活動 (4年生)	算数 (5年生)	国語 (3年生)



研究協力校での実践研究【指導案検討】

- ▶ 研究の趣旨・概要について伝えた上で、指導案を作成の依頼した。
- ▶ 各校で使用している既存の指導案の形式での指導案作成を依頼した。
- ▶ 指導案検討については、「みんながわかる授業づくりアイデアシート」を参考にすることを依頼した。
- ▶ 指導案の中に配慮の必要な児童生徒についての実態の記入、座席表の添付を依頼した。

研究協力校での実践研究【協議次第】

- | | | |
|---|------------|----------|
| 1 | 趣旨の説明 | (5分程度) |
| 2 | 授業者より | (5分程度) |
| 3 | グループ協議 | |
| | 個人で付箋に記入 | (5分程度) |
| | グループでの話し合い | (30分程度) |
| 4 | 全体発表 | (15分程度) |
| 5 | まとめ | (5分程度) |
| 6 | 校長より | (5分程度) |
| 7 | アンケート記入 | (5分程度) |
| | | (合計 75分) |

(事前の授業参観をすることを前提とした)



本県の現状と課題

昨年度までの取組

今年度の取組

今後に向けて

全体への配慮

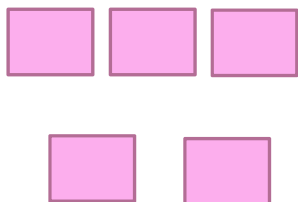
個別の配慮

良かった点

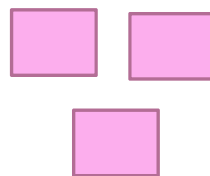
課題（児童生徒の様子）

次時に向けてのアイデア

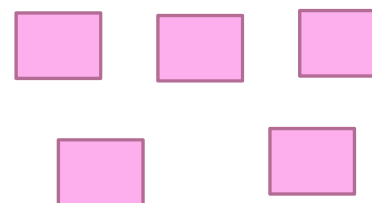
わかる工夫



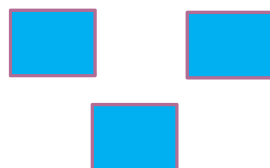
伝え方の工夫



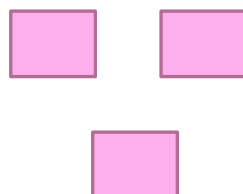
集中できる環境の工夫



学習形態の工夫



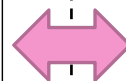
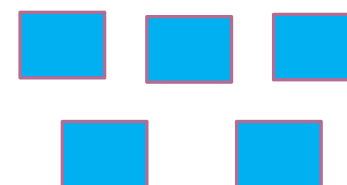
伝えやすい工夫



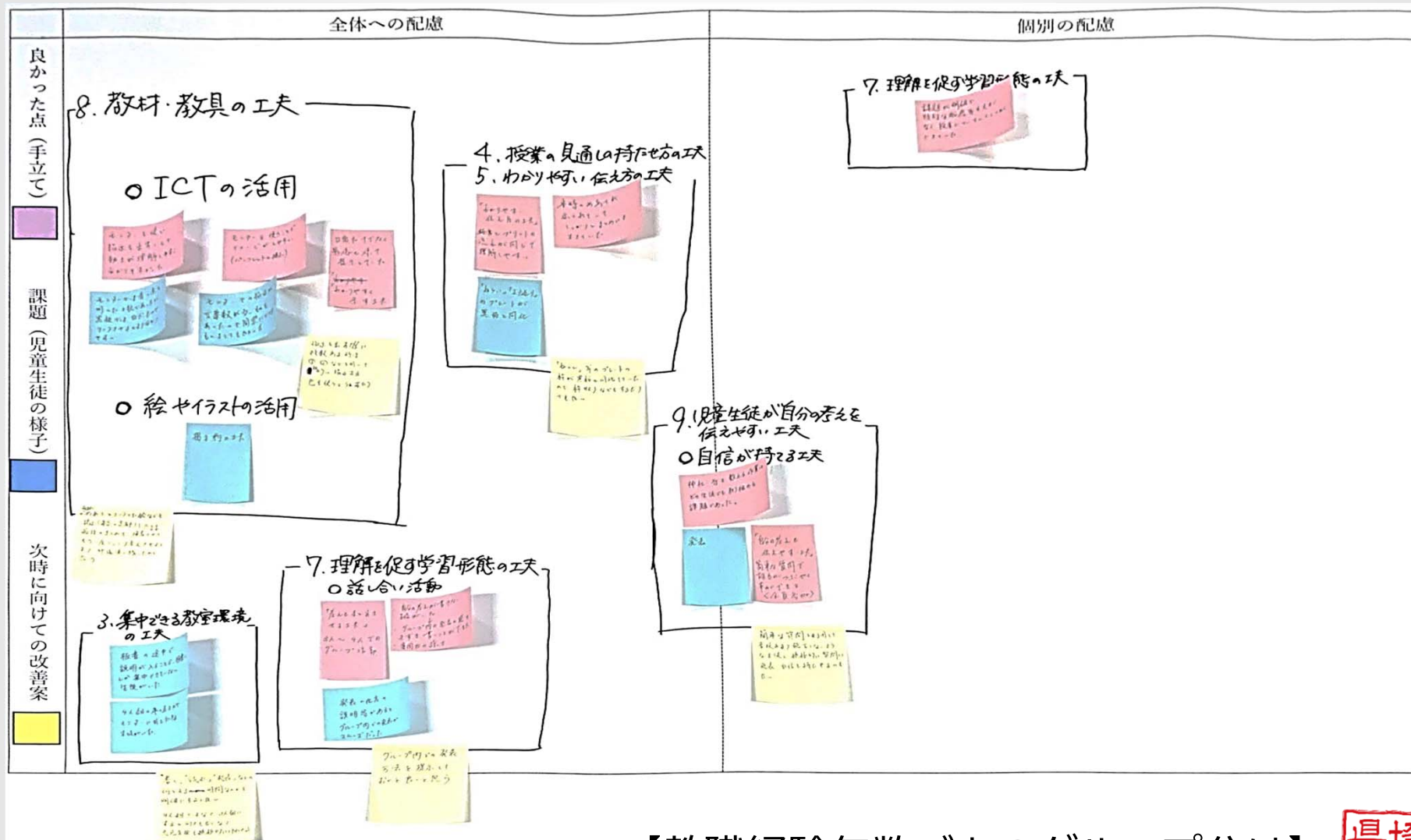
伝えやすい工夫



教材・教具の工夫

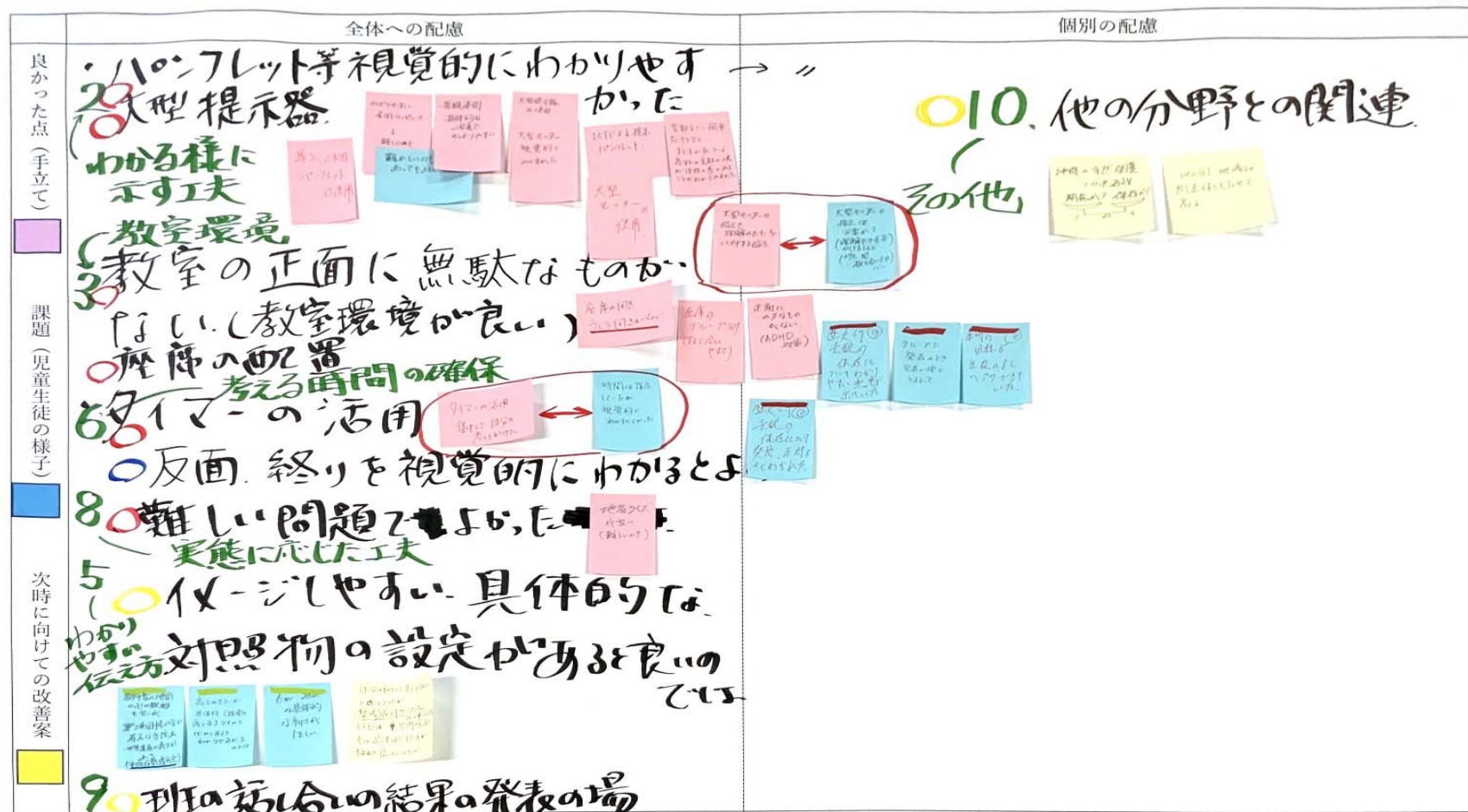


研究協力校での実践（D中学校）



【教職経験年数ごとのグループ分け】

研究協力校での実践（D中学校）



【教職経験年数ごとのグループ分け】

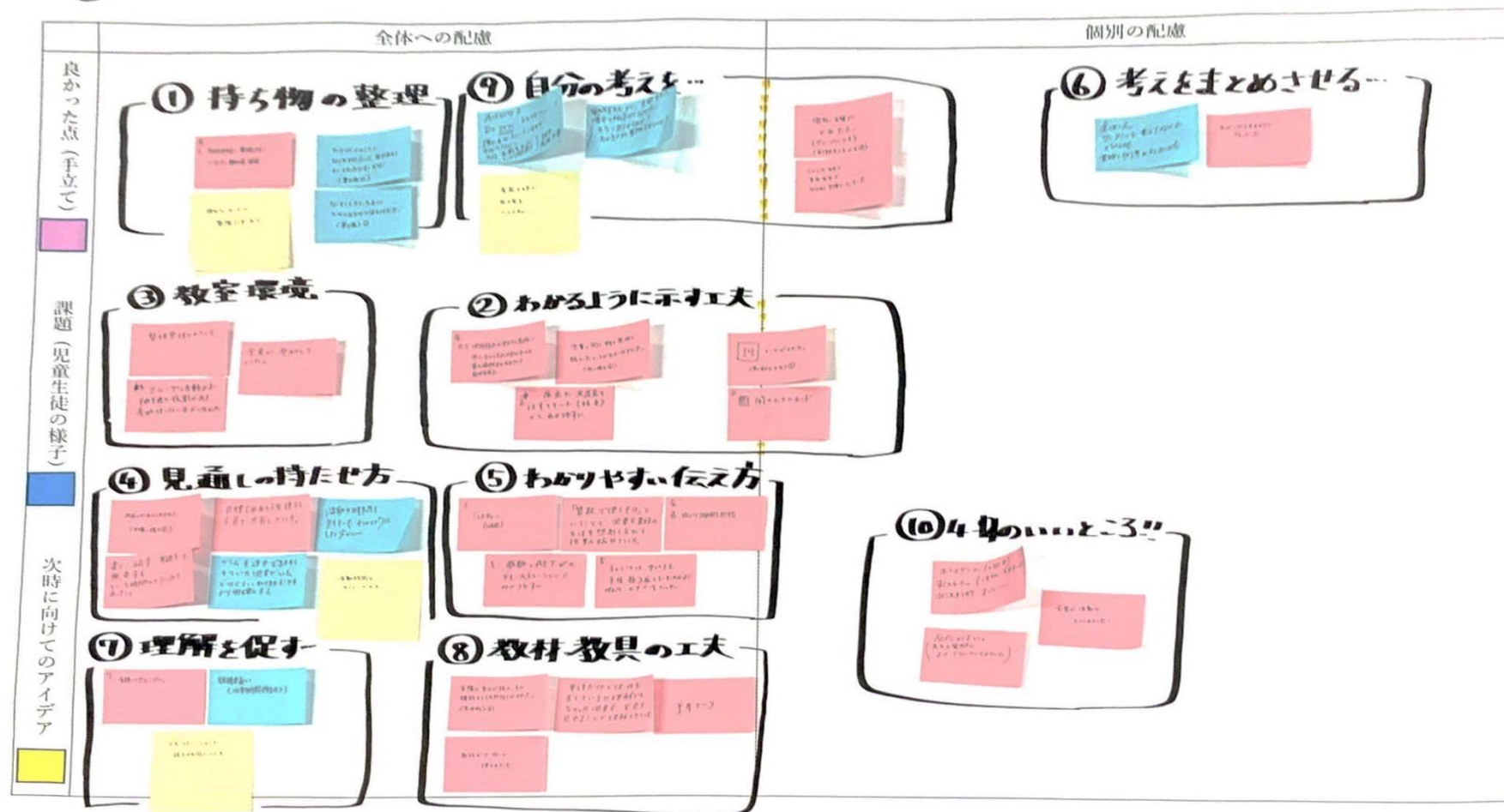
本県の現状と課題

昨年度までの取組

今年度の取組

今後に向けて

研究協力校での実践（E小学校）



グループ編成：縦割りグループ



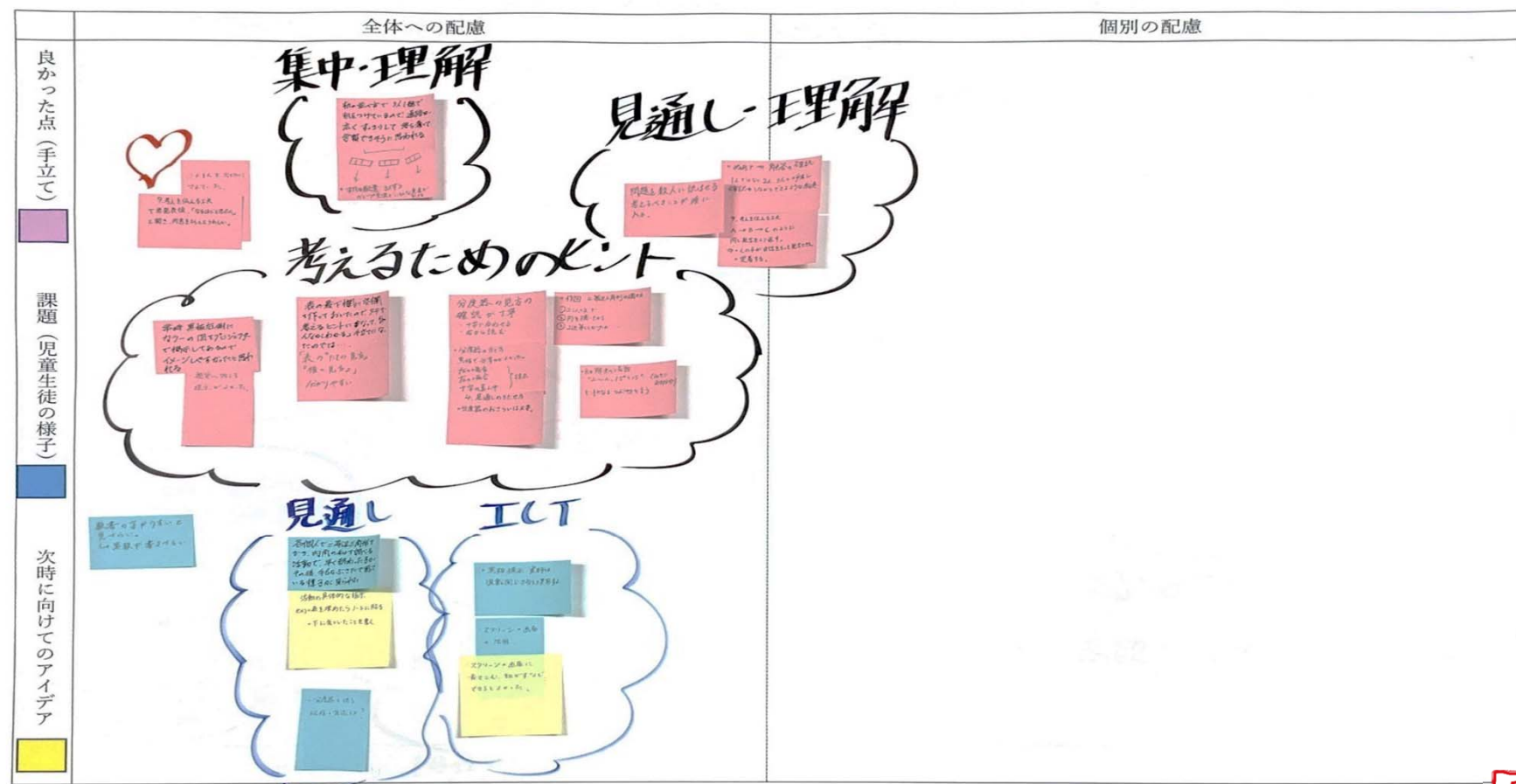
研究協力校での実践（E小学校）

E

	全体への配慮	個別の配慮
良かった点（手立て） 課題（児童生徒の様子） 次時に向けてのアイデア	2. わかるように示す 3. 教室環境 4. 見通し 5. 分かりやすい伝え方 7. 学習形態 8. 教材・教具 9. 自分の考えを伝えやすい	1. 持ち物が整理しやすい工夫 3. 集められる教室環境の工夫 9. 自分の考えを伝えやすい工夫

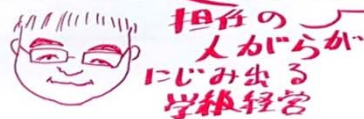
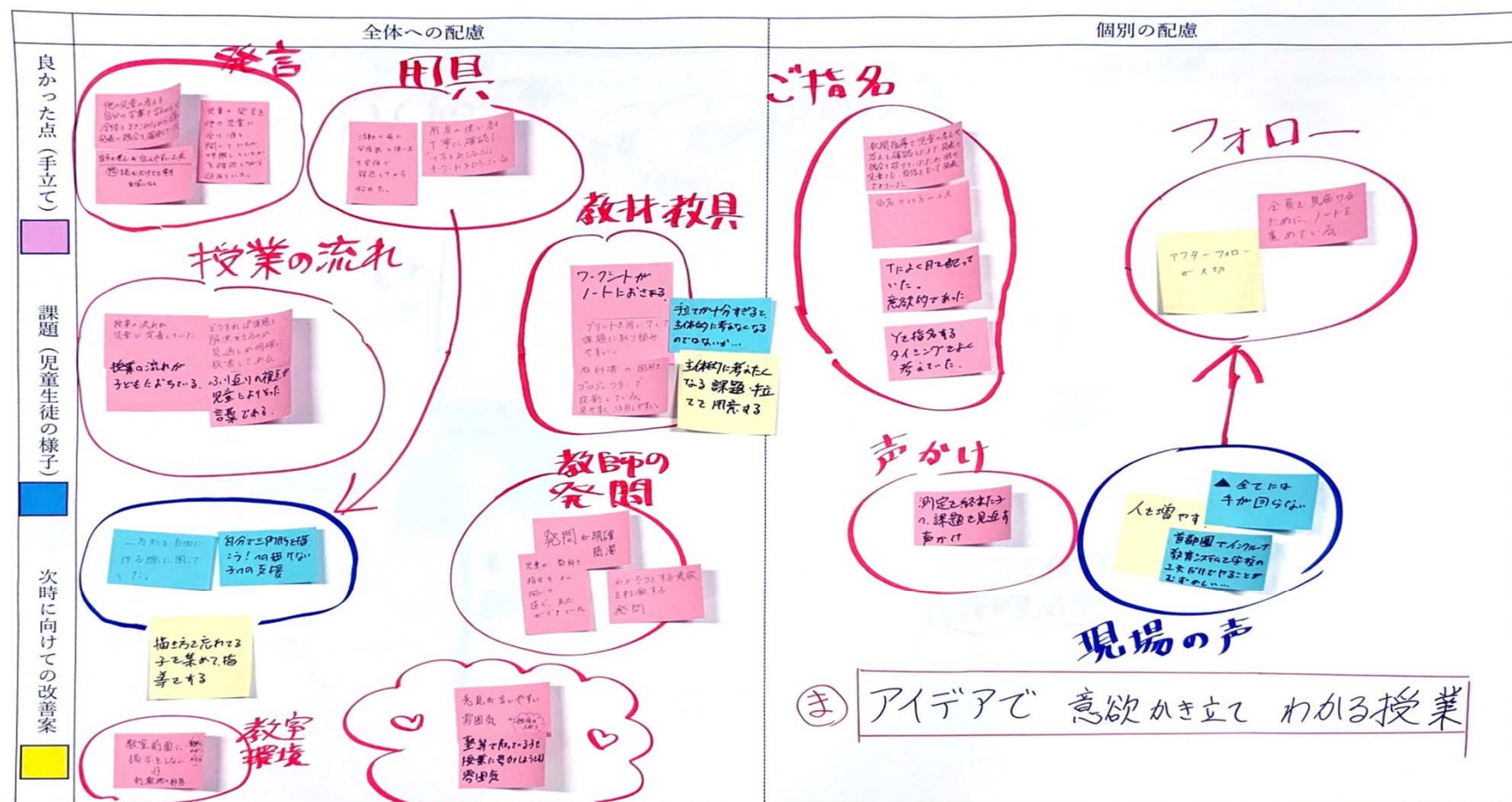
グループ編成：縦割りグループ

研究協力校での実践（F小学校）



グループ編成：縦割りグループ

研究協力校での実践 (F小学校)



グループ編成：縦割りグループ



本県の現状と課題

昨年度までの取組

今年度の取組

今後に向けて

研究協力校での実践（G中学校）

全体への配慮

個別の配慮

良かった点（手立て）

課題（児童生徒の様子）

次時に向けてのアイデア

基礎礎

基礎がしっかり
できている。基礎
がしっかりできている。
基礎がしっかりできている。

基礎がしっかり
できている。基礎
がしっかりできている。
基礎がしっかりできている。

基礎がしっかり
できている。基礎
がしっかりできている。
基礎がしっかりできている。

教材

ワークシート
教材がしっかり
できている。教材
がしっかりできている。
教材がしっかりできている。

教材がしっかり
できている。教材
がしっかりできている。
教材がしっかりできている。

深い学び

深い学び
教材がしっかり
できている。教材
がしっかりできている。
教材がしっかりできている。

教材がしっかり
できている。教材
がしっかりできている。
教材がしっかりできている。

教材がしっかり
できている。教材
がしっかりできている。
教材がしっかりできている。

支援

支援がしっかり
できている。支援
がしっかりできている。
支援がしっかりできている。

支援がしっかり
できている。支援
がしっかりできている。
支援がしっかりできている。

グループ編成：学年ごと
研修時間：45分
（協議の時間を20分とした）



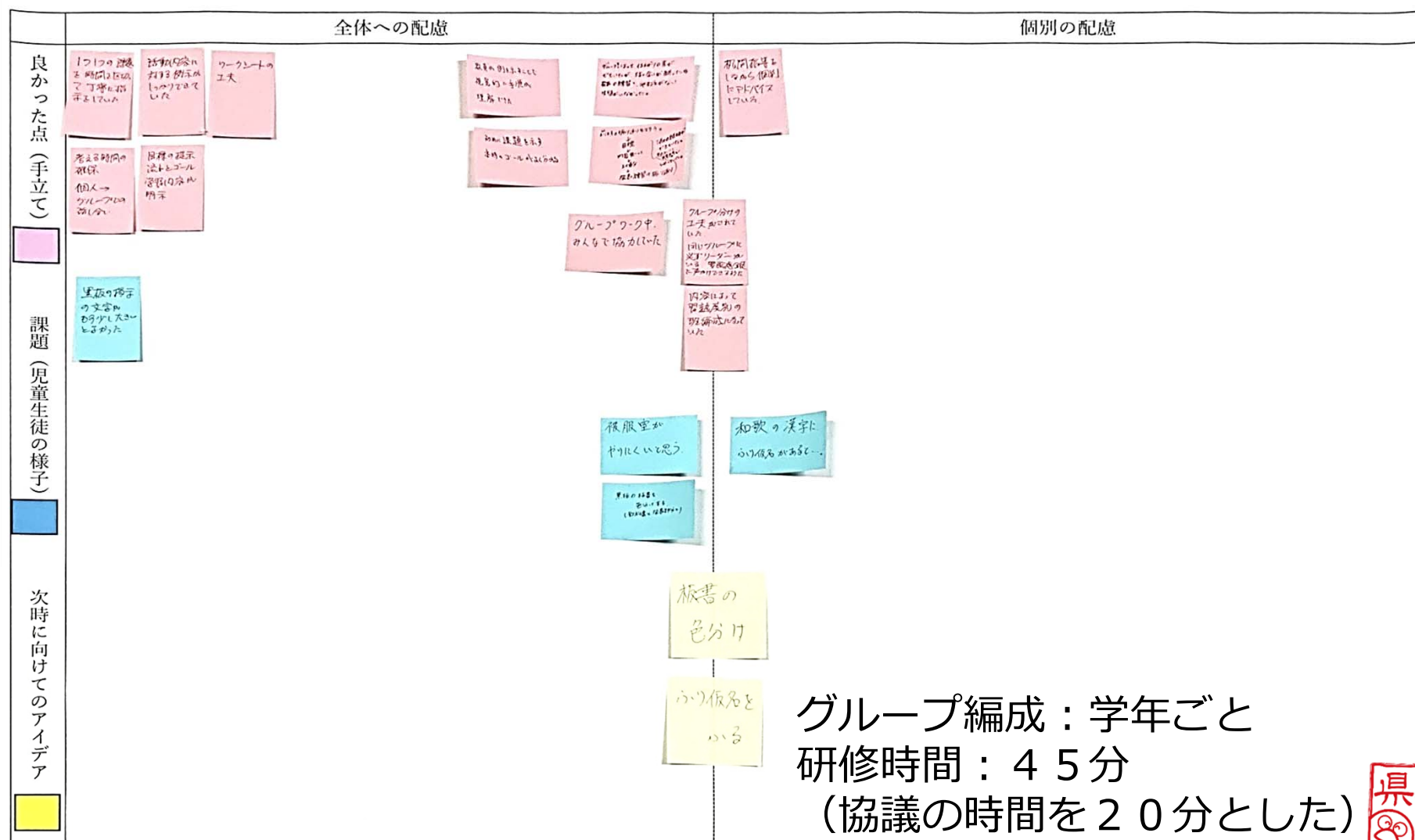
本県の現状と課題

昨年度までの取組

今年度の取組

今後に向けて

研究協力校での実践（G中学校）



研究協力校での実践

研究協議の話し合いから（一部抜粋）

【良かった点】

- ・ 黒板の周囲の掲示物が少なく良かった。（２－①）
- ・ 座席の配慮（３人組）は話し合いをしやすい組み合わせになっていた。（３－①）
- ・ 本時のねらいをしっかりと伝えていた。（４－①）
- ・ 授業者の発問、説明がシンプルでわかりやすかった。
（５－③）
- ・ ワークシートがノートに貼りやすい大きさでよかった。
（８－①）
- ・ 机間指導の助言が適当で、子どもたちが安心して活動に取り組めていた。（９－②）

研究協力校での実践

【課題（児童生徒の様子）、次時へのアイデア】

（一部抜粋）

- ・授業の流れに見通しを持てていない児童が見受けられた。
→授業の流れを視覚化して提示をする。（４－③）
- ・活動の説明の時に、児童がカードの片付けをするなどしていた。
→児童が「聞く」「話す」等に集中できるよう活動は一つずつになる様に指示をする。（５－③）

研究協力校での実践

【課題（児童生徒の様子）、次時へのアイデア】

（一部抜粋）

- ・ ICTの活用は良かったが、より効果的に使用できると良い。
→図形が動くなど、視覚的にわかりやすい提示方法を検討。（８－⑤）

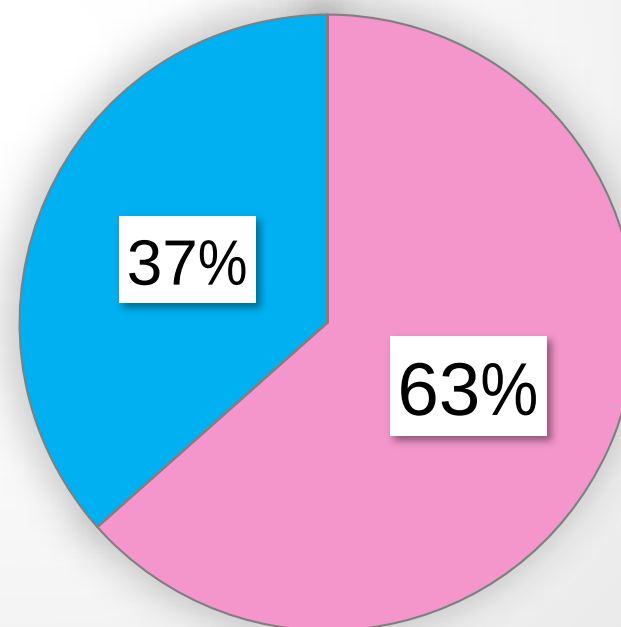
事後アンケートから

①「みんながわかる授業づくりアイデアシート」は役立ちそうですか。

	役立つ	まあ役立つ	役立ちあまりない	役立たない
D市 (中学校)	14	11	0	0
E市 (小学校)	16	12	0	0
F市 (小学校)	13	7	0	0
G市 (中学校)	16	4	0	0
全体	59	34	0	0

全体

n=93
無回答除く

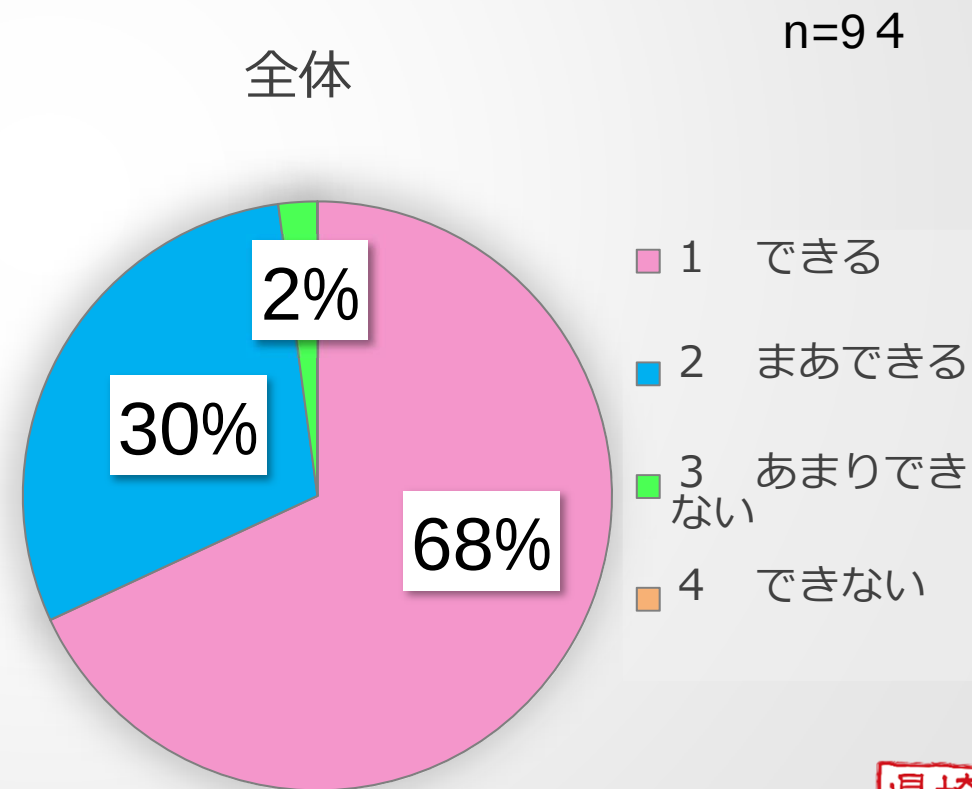


- 1 役立つ
- 2 まあ役立つ
- 3 あまり役立ちない
- 4 役立たない

事後アンケートから

②研究協議で話し合った内容は、これからの日々の指導に生かすことができそうですか。

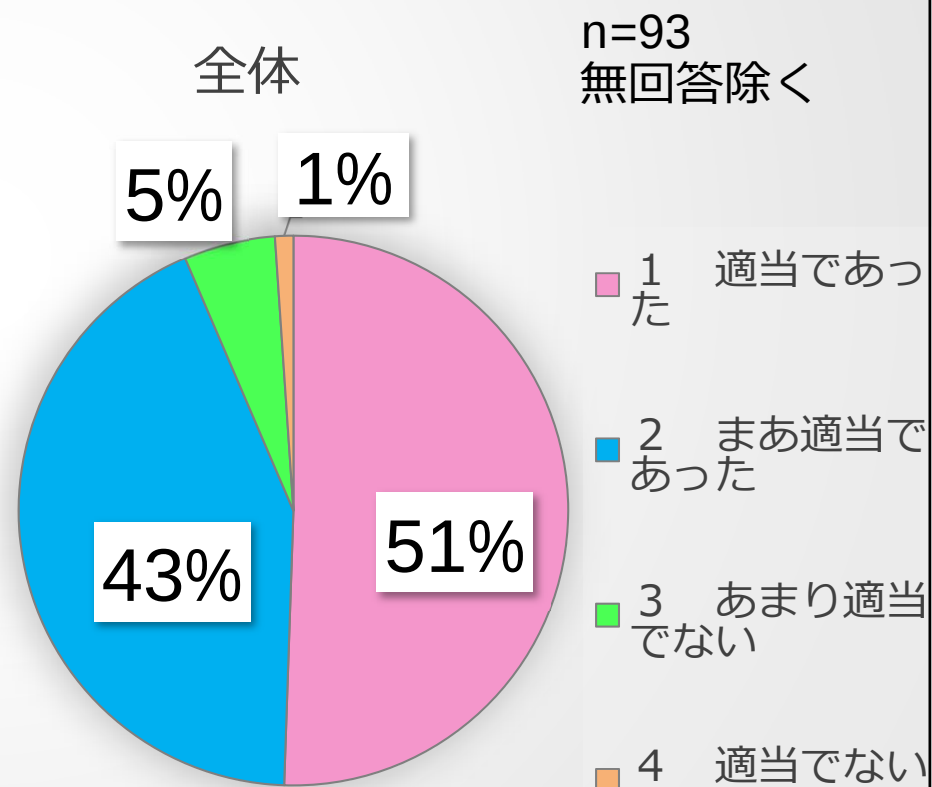
	できる	まあできる	あまりできない	できない
D市 (中学校)	15	9	1	0
E市 (小学校)	20	9	0	0
F市 (小学校)	14	6	0	0
G市 (中学校)	15	4	1	0
全体	64	28	2	0



事後アンケートから

③研究協議の時間配分は適当でしたか。

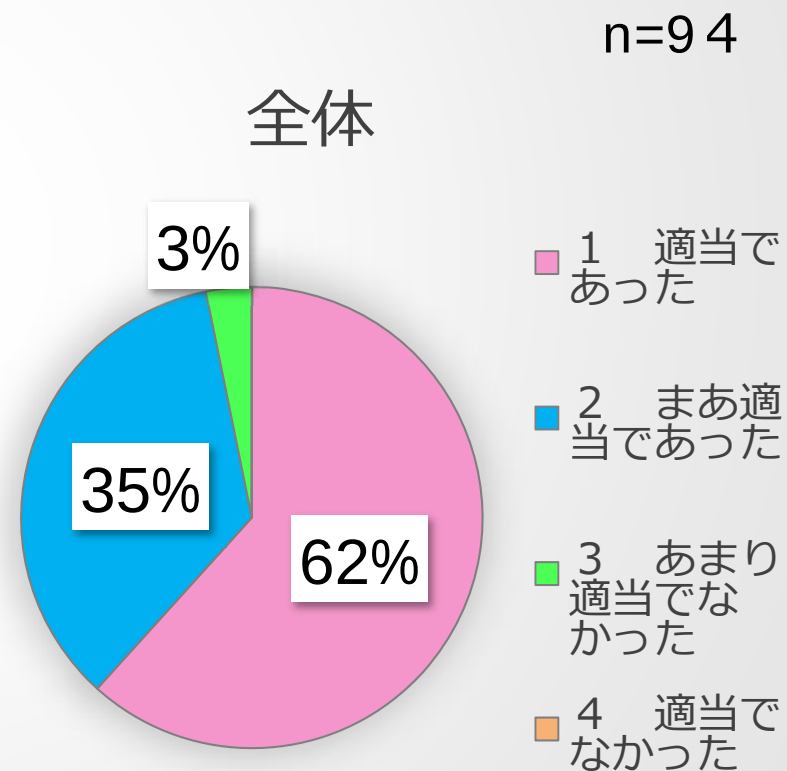
	適当あつた	まあ適当であつた	あまり適当でない	適当でない
D市 (中学校)	11	12	1	0
E市 (小学校)	14	15	0	0
F市 (小学校)	12	8	0	0
G市 (中学校)	10	5	4	1
全体	47	40	5	1



事後アンケートから

④研究協議のグルーピングは協議を進める上で適当でしたか。

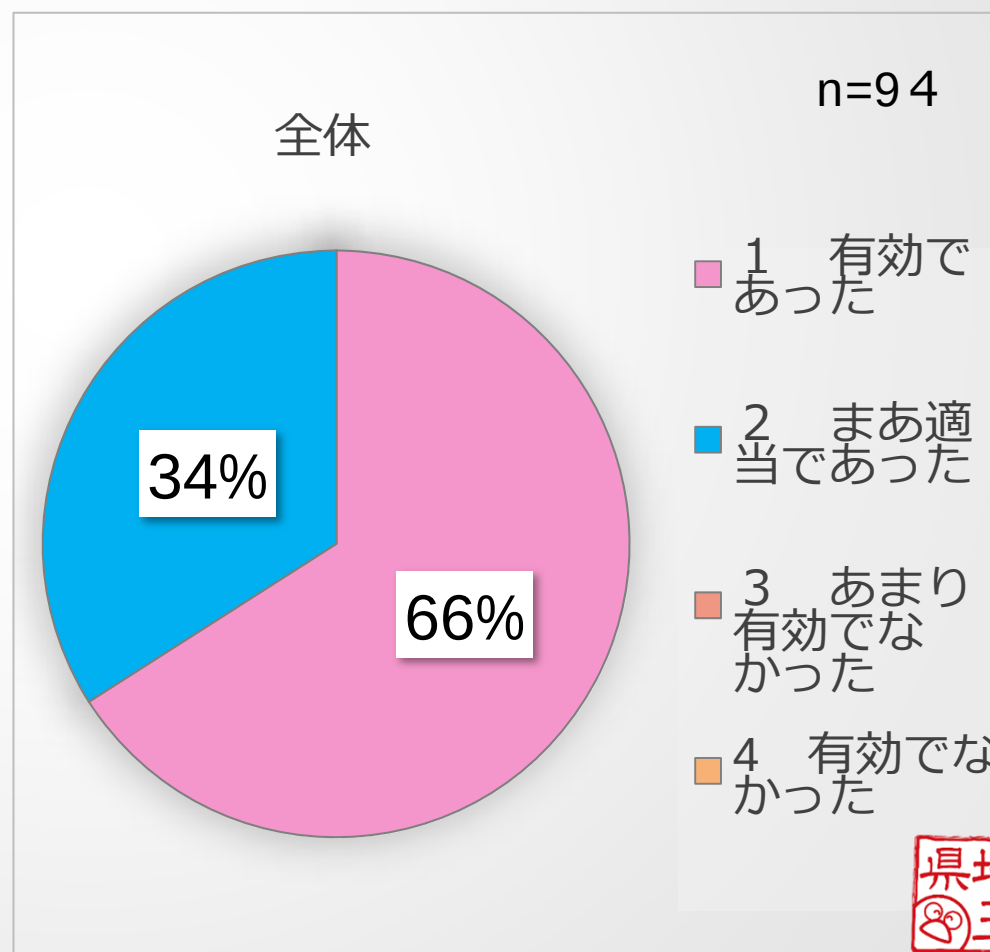
	適 当 で あ っ た	ま あ 適 当 で あ っ た	あ ま り 適 当 で な か っ た	適 当 で な か っ た
D市 (中学校)	15	8	2	0
E市 (小学校)	17	12	0	0
F市 (小学校)	12	8	0	0
G市 (中学校)	14	5	1	0
合計	58	33	3	0



事後アンケートから

⑤協議のやり方は有効な方法でしたか。

	有効であつた	まああつた まあ適当で	あまり有効で なかつた	有効で なかつた
D市 (中学校)	20	5	0	0
E市 (小学校)	13	16	0	0
F市 (小学校)	15	5	0	0
G市 (中学校)	14	6	0	0
全体	62	32	0	0



事後アンケートから（一部抜粋）

自由記述より

- ・「アイデアシート」がまとめられていてよかった。
- ・教科は違っても、今後の自分の授業に活かせることを知れた。
- ・他の先生方（先輩）の考え方を知れる良い機会になった。

事後アンケートから（一部抜粋）

自由記述より

- ・ 色々な視点から授業改善をするための工夫や改善点を知ることができる機会となった。
- ・ 特別支援教育の視点を意識することで、授業改善が行えると感じた。
- ・ 授業者への質問をする時間があると良かった。

まとめ

- ・ 協議実施後のアンケート結果から「アイデアシート」の構成・情報」「協議の進め方」等について概ね肯定的な評価を得た。

→無理なく効果的な研修の在り方について提案

- ・ 教科のねらいを達成するための手立てとして、一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりの重要性を意識した協議をすることができた。→指導力の向上

- ・ 研究協議で話し合われた新しいアイデアを「アイデアシート」に追加し、学校のノウハウを蓄積することができる。→情報の共有

3 今後に向けて



市町村教育委員会

研修プログラム

市町村
教育委員会へ
配布・周知

管理職
特別支援教育
コーディネーター

校内研修の一考を提案

発信方法について
今後の課題

小・中学校の
通常の学級の教員

インクルーシブ教育システムの推進に向けた取組

○「インクルーシブ教育システム研修会」を実施

受講対象校種

- ・ 小学校
- ・ 中学校
- ・ 高等学校
- ・ 特別支援学校
- ・ 市町村教育委員会

受講対象者

- ・ 管理職
- ・ 特別支援教育
コーディネーター
- ・ 通常の学級の教員等
- ・ 指導主事



昨年度は381名が参加

